

医師部門

受賞者： おにづか たくや 鬼塚 卓彌 (88歳)

昭和大学 名誉教授、特別顧問



鬼塚氏は、1956年東京大学医学部を卒業、同大大学院にて整形外科を専攻し、三木威勇治教授に師事、整形外科と形成外科診療班に属した。大学院修了時、三木教授の指名で、原爆乙女の治療基金の留学生として当時米国形成外科の最高峰であったニューヨークの Mt. Sinai 病院の Dr. Barsky のもとに留学し、形成外科最先端の技術を習得した。

帰国後 1962年東大形成外科診療班に出向、1964年に中央鉄道病院に形成外科を新設、1968年昭和大学に赴任、形成外科を開設した。

教育面では、10年毎に教科書の刊行を行い、2018年に第5版を上梓、専門用語の和訳、新手術法の開発に関わる多数の論文を発表した。またアジア、欧米から多くの留学生が氏の元で学び、帰国後は母国の形成外科発展に尽力している。

国内学会では、評議員、理事、理事長、会長を歴任し、国際学会では、事務局長、理事、副会長、会長を務め、世界の形成外科の発展にも寄与した。

特に、日本では唇裂口蓋裂の患者が諸外国に比べ極めて多いことに気づき、1980年、昭和大学内に口唇口蓋裂治療を専門とするセンターを立ちあげ、小児科・産婦人科・耳鼻科・口腔外科・小児歯科・矯正歯科・言語治療士・ソーシャルワーカーなどによるチーム医療を日本で初めて開始した。手術した患者数は1万を超え、多くの患者の社会的生活を改善した。また、アジア諸国で海外協力隊を組織し、医療支援を行っている。

現在も日本並びに外国の関連する学会の名誉会員、特別会員を勤め、形成外科の創成期から現在まで、その発展に大きく貢献している。

推薦者： 門松 香一 昭和大学藤が丘病院 主任教授